



ユニセフと地球の子どもたち②

http://www.unicef.or.jp

モンゴル
Mongolia

家にいられなくなった
エンサイハンくんの生活

モンゴルでは「ストリートチルドレン」とよばれる子どもがふえている。親から暴力をふるわれたり、学校に行くお金がなかったりしたため、家を出て仲間たちと町の中でくらすようになった子どもたちだ。そのひとり、エンサイハンくん(十二歳)が、どんな暮らしをして、どんななやみをもっているのか、教えてくれるよ。



家を出たので、お父さんも、そのひとりでです。

みなさんはモンゴルのことを知っていますか。どこまでもつづく広い平原、まっ青な空、草原を走る馬、「ゲル」とよばれる組み立て式の家でくらす家族……、そんなイメージかな。

ごみ捨て場で食べ物さがし

それから家には帰っていません。冬の間は、外よりはあたたかいマンホールのなかで仲間たちと生活していました。食べ物を見つけたら、ホテルのごみ捨て場に行き、さきさき取りました。ときどき、ほかのグループとけんかもしました。



モンゴルは、前は社会主義の国でした。このときは店に行っても、ものがあまらなかったけれど、いまは資本主義の国に変わり、店はいろいろなものであふれています。そのかわり、社会のしくみがかわって、仕事をする人が出なくなりました。

ある夜、マンホールの中へ

暴力ふるう父親から逃げ町へ
保護され自立への道を考える

センターの人たちは、ぼくをもこの家にもどそうとしてくれます。ぼくは、もどりたいと思いません。またお父さんになぐられるのがいやだから。



センターの人たちは、ぼくをもこの家にもどそうとしてくれます。ぼくは、もどりたいと思いません。またお父さんになぐられるのがいやだから。

登録しながら技術学びたい

これからどうやって生活していけばいいのだろう？ 中には長くいられず、いつかどこかに行かないといけないのです。いまはセンターとユニセフの人に相談して、これからどうするかを決めてもらおうと思っています。



世界のすべての子どもは「権利」をもち、「子どもの権利条約」に守られています。第二十条には「家庭をうばれた子どもは、保護について書かれています。」

エンサイハンくんのように家族のもとにもどることがむずかしい場合には、施設で保護したり、大切にしてくれる里親をさがしたりすることです。

エンサイハンくんは、エンサイハンくんの希望を聞き、施設の人とも話し合っており、エンサイハンくんにとって一番よい方法を考えています。

おしえて！ユニセフ

ユニセフが支援活動を行うときの基準ってあるの？

はい、あります。ユニセフが支援事業を進めるとき、次の三つの点をよく調査します。

一、五歳の誕生日をむかえる前に命をうしなう子どもの割合
二、国民ひとりあたりの所得
三、十八歳未満の人口

5歳未満で命をうしなう子どもの割合など3つ

アフリカ西部のシエラレオネでは、五歳の誕生日をむかえない子どもの割合は、千人中二百八十四人。日本は五人でした(二〇〇二年のデータ)。また、所得が低いほど、子どものために使われるお金が少なくなります。

ひとつは、千人生まれたとき、何人が五歳になる前に命をうしなうか、という割合です。その



三つの基準は、守られるはずの命を守り、将来その国をになう子どもたちがすこやかに育つためにもうけられているのです。

掲載は一週おき。次は五月五日の予定です

内田宏子さん

日本ユニセフ協会
展示ボランティア

ユニセフと
いっしょに

「無関心だった目」ががやくよろこび

日本ユニセフ協会
展示ボランティア
できます。保健の道具や、食料などの学用品、難民キャンプ



内田宏子さん

での生活品など、さまざまです。きれいな水にこの経

口補水塩(ORS)をとかして飲ませるといいんだね。説明を聞き終わって、最初はユニセフの活動に無関心だったみなさんの目がかがやいたとき、わたしたち展示ボランティアはとてもうれしくなるのです。



ホールで熱心に話を聞く千葉県習志野市の藤崎小学校の子どもたち

